

令和2年度 社会福祉法人慈照会事業計画

通常規模型通所介護事業
認知症対応型通所介護事業
短期入所生活介護事業
介護老人福祉施設事業
訪問介護事業
居宅介護支援事業
ケアハウス事業

令和2年度社会福祉法人慈照会事業計画

1. 基本方針

わが国経済は、新型コロナウイルスの収束の兆しが見えない中、企業収益や雇用、所得環境、個人消費に大きな影響を及ぼし始めており、足下で大幅に下押しされ、厳しい状況にある。今後この厳しい状況が続くと見込まれている。一大イベントである東京オリンピックの開催も来年に延期となった。当法人においては、感染症対策に細心の注意を払わなければならない緊張状態が続いているが、着実に重点課題に取り組んでいきたい。

事業存続のための介護人材の確保では、採用媒体の工夫による新たな人材との接点づくり、職員全体での人材確保体制の構築を継続する。定着では、働き方改革への対応、職員の業務負担軽減のための福祉用具・機器、介護ロボット等のテクノロジーの積極的な導入、修繕及び備品の更新により職場環境の整備を計画的に進める。

公益的な取り組み（羊の飼育を通じた地域の憩いの場の提供、サロン支援）を継続し、地域の福祉ニーズを把握し、双方向の支え合いを進め、「地域共生社会」の中核的な役割を果たしていきたい。これらは人材確保の重要なファクターにもなってきている。

今後介護業界では、収支状況の悪化、人材確保難による事業廃止・譲渡、法人の合併等が進むと考えられる。団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年問題（人口11,000万人、高齢化率35.3%）に想定される社会を見据え、人口・世帯構成・就業者数の推移と見通し、介護人材の不足数・充足率等を踏まえて、本当に地域で必要となる適正なサービスの種類は何か、規模はどれくらいかを考える必要がある。これらの事業環境を生き残るには、変化に対応できるスピード感と柔軟性が必要であり、新しい取り組みに積極的に挑戦する組織への変革を進めたい。4月より短期入所生活介護（看護体制加算、夜勤職員配置加算）、介護老人福祉施設（夜勤職員配置加算）を取得する。全事業所において、細やかなマネジメントにより、着実に収入を確保するとともに、コスト削減にも積極的に取り組みたい。

※重点目標

（1）働きやすい職場づくりと人材の確保・定着

次世代を担う介護人材との接点づくり、施設見学の充実、採用活動の工夫、働きやすい職場対策（コミュニケーション促進、時間管理の徹底、有給休暇取得促進、記録データ活用、福祉用具・介護ロボットの活用）の実施、ホームページによる情報発信

（2）職員教育体制の充実とキャリアアップの推進

未経験者を育成する仕組みづくり、キャリアアップに合わせた施設内研修の実施、記録データの育成活用、福祉用具・機器の積極的な学び、認知症研修会等施設外研修への参加、資格取得促進

（3）地域交流と貢献

地域の公益的な取り組みの推進（サロン支援、羊の飼育、地域会議参加等）、三方よし主催初任者研修への協力（会場提供及び講師派遣）、滋賀県老人福祉施設協議会副会長・東近江介護サービス事業者協議会会長・滋賀県介護サービス事業者協議会連合会役員の施設としての活動、地域密着型介護事業運営推進会議の実施、地域行事への参加と実施

2. 事業別重点目標

【通常規模型通所介護事業】（定員：30名）

70,000,000円を収入目標とする

重点目標： 職員の介護技術を向上し質の高いサービス、安心・安全なケアの提供を目指す
施設内外の研修に参加し、内容を職員間で共有する。定期的な勉強会を実施し、職員の質の向上に努める。新人職員のための育成プログラムを作成する。

【認知症対応型通所介護】（定員：12名）

7,200,000円を収入目標とする

重点目標： 認知症ケアの向上

勉強会の実施や認知症基礎研修に参加し、認知症ケアの質を向上させて、利用人数増に結び付ける。

【短期入所生活介護事業】（定員：16名）

84,000,000円を収入目標とする

重点目標： 介護ロボット・ICTの活用および研修への参加

介護ロボット・ICTの活用、検証を行うことや研修への積極的な参加により利用者・職員の満足度を上げて、業務の効率化を図る

【介護老人福祉施設事業】（定員：54名）

200,000,000円を収入目標とする

重点目標： 現場に合った福祉用具の有効活用を図ることで業務効率化、事故防止に繋げる
職員個々が感じている日ごろのニーズ、入居者ニーズを明確にし、介護負担の軽減、安全安心なケアを具体化する。新しい人材が従事しやすい環境の整備とともに、事故の防止を進める。現場に合った福祉用具とは何かを探り、業務の効率化、省力化を目指す。

【訪問介護事業】

30,000,000円を収入目標とする

重点目標： ご利用者の人生の困難な時期に関わる意識を持ったサービスの提供の実施

その人らしい普通の生活を安心安全に過ごしてもらうため、常にきめ細かく対応し、幸せを感じてもらえるようなサービスを提供する。他の事業所、職種との連携に努める。

【居宅介護支援事業】

13,000,000円を収入目標とする

重点目標： 地域での生活から看取り期までのケアマネジメントプロセスを重視した計画作成
実務研修のケアマネジメントプロセスに則った担当者支援、書類・ファイルの整理がなされ、担当者の事業所内での密な情報共有が図れるよう努める。

【ケアハウス事業】（定員：15名）

満床維持と待機者を確保する

重点目標： 早期満床確保と維持

満床の確保と維持に重点を置く。重度化しても安心して生活できる環境づくりと手厚いフォローを実践する。認知症、精神疾患のある方の理解を深め、楽しみのある生活を追求する。

3. 年間行事予定等

上半期		下半期	
4月	職員全体会議	10月	入居者健康診断 職員健康診断・ストレスチェック 第2回総合避難訓練
5月	第1回総合避難訓練	11月	第2回理事会（上半期事業報告、補正予算） 第2回夜間想定避難訓練
6月	第1回理事会（事業報告・決算） 第1回評議員会（事業報告・決算） 第1回夜間想定避難訓練	12月	法人忘年会
7月		1月	年賀式
8月	カルナ納涼夏祭り 夏祭りお疲れ様会	2月	
9月	カルナハウス敬老式典	3月	夜勤者健康診断 第3回理事会（事業計画・予算）

※施設内会議

経営会議（月1回） スタッフ会議（週1回） 給食会議（月1回）

デイ会議（月1回） ショート会議（月1回） 特養会議（月1回） ヘルパー会議（月1回）

居宅介護支援事業所会議（月1回） ケアハウス会議（月1回） 事務会議（月1回）

※委員会活動等

研修教育体制プロジェクトチーム、事故・苦情防止委員会、環境整備委員会